

タクシー運転手の世間話 ～ 青と緑

(公財) 交流協会台北事務所 総務部長 岡田健一

夏以降、台湾においても尖閣諸島が報道でしばしば取り上げられたりするようになりました。実際、交流協会の台北事務所にもデモ隊が2回ほどやってきました。9月25日に多数の台湾の漁船等が尖閣諸島の領海に侵入し、「放水合戦」が行われたシーンのニュース映像を御覧になった日本の皆様は、台湾も大陸も同じじゃないかと思われたかもしれません。

しかし、台湾においてはデモ隊やデモ行進自体は極めて平和的であり、大変幸いなことに、台湾に滞在されている日本人の方々や日本企業に対しては、暴力的な事件は今に至るも全く発生していません。正に、安心して暮らしたり、安全に旅行できる環境が保たれています。このことは、本年10月5日に発出された「台湾の皆様への玄葉外務大臣のメッセージ」にも言及されているように、台湾社会の成熟ぶりを示すものであると同時に、日台間の人々の間に友情が深く根付いていることの証と言えましょう。こと、尖閣諸島について言えば、私が乗車したタクシーの運転手さんの中には、「第二次大戦直後の台湾の地図帳を開けてみれば、尖閣諸島が日本の物だということくらい、誰でも分かるさ」という人もいたくらいです。

さて、やっとタクシーの運転手さんの話に入ってきましたが、最近タクシーに乗ったら、運転手さんが英語で話しかけてきて、おまけに車内で英語のニュース番組が流れていました。「運転手さん、英語が好きなんですね」と話しかけたら、「いやいや、実はね、それはそうなんだけど、それだけじゃなくって、ほかにも3つ理由があるんだよ。」とのこと。その説明によれば、「第1に、台湾の放送はどの放送局をとっても全て政治的に偏りすぎていて、青陣営(国民党等)にせよ緑陣営(民進党等)にせよ、どちらも聞くに堪えない。その点、英語のニュース番組なら大丈夫。第2に、その偏った台湾の放送を流していると、たいてい、乗ってきた客から議論を吹っ掛けられる。偏った放送を支持するにせよ、それに反対するにせよ、いずれにせよ、またまた偏った議論を聞かされるのはうん

ざりだ。したがって、英語のニュース番組ならそもそも内容的に議論を惹起しないので安全なんだよ。そして、第3に、そのような議論を吹っ掛けてくる輩に限って、大体英語もできないので、とにかく英語を流しておけば安全なんだよ。」ということでした。

確かに、台湾では、青陣営(国民党等)だ、緑陣営(民進党等)だ、などと言って、重要な論点の多くについて、両陣営の意見が真っ向から対立することが少なくないようです。別のタクシー運転手に言わせれば、「結局、青も緑も、自らの政党の利益のために相手の政党を攻撃しているだけであり、何が台湾の人々のために本当に役に立つかという観点から殆ど考えてくれない。結局、損をするのは庶民なんだよ。」という声も聞こえるくらいです。

それくらい青と緑の対立は激しいのかもしれませんが。それを窺わせる余談を最後に一つ。最近10人くらいの夕食会に出席していた時のことです。外国人は私と米国人の合計2人で、あとは台湾の方々でした。現職の閣僚もおられましたから、青の方が多かったかもしれません。さて、夕食会も終わりに近づいたころ、ある人が米国人に対して、「そういえば、あなたのシャツは緑ですね。なるほど、あなたは緑の支持者だったんですね。」と言ったのです。もちろん、冗談だったのだと思いますが、その米国人は真剣に言い訳を始め、拳句の果てに、「なんだったら、家に来てもらって自分のネクタイのコレクションを見てもらえば、自分が青でも緑でもないことをわかってもらえるはずだ」とまで言い出したのです。しかし、それでも皆は面白がって「怪しい、怪しい。それにしても綺麗な緑色のシャツだ。」とからかい続けました。すると、なんと進退窮まった米国人は、最後にこう言ったのです。「この際だから言うけれど、自分の今日の下着のパンツの色は青だ。」さすがに、なんなら見せてやるとまは言わなかったのではあったのですが、もちろん、一同は絶句。私も、横で見ている、そこまでして「潔白」を証明しなくてはならないのかと、台湾での青と緑の微妙な関係を改めて実感した次第です。